

敬愛大学教育後援会報

敬 愛

「敬愛」第38号

発行 敬愛大学教育後援会

発行責任者 小林 露 整

編集責任者 藤井 輝 男

田口 功

〒263-8588 千葉市稲毛区穴川1-5-21

TEL. 043(284)2381



NHKによる収録（少林寺拳法部）



教育後援会会長  
小林 露 整

敬愛大学教育後援会々報の発行にあたりまして、ご挨拶申し上げます。日頃より教育後援会の会員の皆様におかれましては、後援会活動に対してご理解ご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。

さて先日の衆議院選挙にて政権交代がなされ、新しい政局を迎えることになりました。我々国民が住みやすくより良い環境で生活できるような政治を期待していきたいものですが、やはり政治だけに頼るだけでなく、一人ひとりがより良い環境作りに努力していかないと世の中は何も変わらないと思います。例えば高速道路の無料化は我々市民にはありがたい話でありますし、物流コストも抑えられ物価や物の安定供給につながると思います。その一方で財源確保や二酸化炭素問題も浮上します。国民一人ひとりがアイデアを出し、天下りなどを減らし、二酸化炭素問題ではガソリンエンジンに頼らず電気自動車の開発等を急務にしていけばよいと思います。こういうひとつ一つのテーマにしても自ら考える時期が来たのではないのでしょうか。メジャーリーグで活躍するイチロ―選手も9年連続200本安打の偉業を達成しました。まだまだ我々日本人も捨てた物ではないと思います。最後にありますが、皆様のご努力に感謝申し上げますとともに、益々のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

ご挨拶



教育後援会副会長  
(経済学部)  
浦川 裕子

敬愛大学教育後援会々報第38号の発行にあたりまして、ご挨拶申し上げます。日頃より教育後援会の会員の皆様におかれましては、後援会活動に対してご理解ご協力をお願いできまして、心より感謝申し上げます。

新館の完成に伴い、4月から国際学部が稲毛キャンパスに移転し、両学部の学舎統合が行われました。あらゆる面で学内がますます活性化され、学生たちも日々充実した学生生活をすごしていること、感謝申し上げます。

大学4年間というのはあつという間に感じますが、実際、現在の時間の速度が昔に比べてとつともなく速まっているのでないかとも言われています。歴史的なスケールでみてみましても、中世など文化の盛んで比較的安定していた時代の1000年間が、今の10年分に相当するとも言われています。今更には現代は思考して行動した結果が良い方向にも悪い方向にも表れやすくなっていると言え、だからこそ日々の時間をどう生きるかがとても重要になるのだとい

うことではないかと思えます。

去る7月22日の既既日食以降、宇宙エネルギーにより生み出される悪い感情)よりポジティブ(良い感情)が強く表れはじめ、人類の生成により力をもたらしているようです。また光と影、あるいは陰と陽の存在も、陽優先でありながらバランスよく統合されていくようです。百年に一度の不況といわれる激動の時代に生きていく今日ではあります、きっと良い方向に向かっていくと信じたものです。

また文明の流れでは、ある文明学者が言うには一六〇〇年サイクルで西洋文明と東洋文明が入れ替わってきた歴史があるようですが、これからの時代では東洋文明が優勢でありながらそれぞれの文明のいいところをミックスした新しい文明ができると予測されるそうです。

個人の心の成長、家庭の成長、企業の成長、国の成長、地球の成長のため、この貴重で濃密な時間の流れを、誰もが有意義に生きてほしいと願います。

最後になりますが、理事長先生、学長先生をはじめ教職員の方々の日々の努力に感謝申し上げますと共に、会員の皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

ご挨拶



教育後援会副会長  
(経済学部)  
成合 信吾

敬愛大学教育後援会々報の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

私はこの6月から教育後援会副会長の大役を仰せつかりました。学生の皆さんが有意義な学生生活を送り、敬愛大学の卒業生として胸を張って社会へ羽ばたけるよう、微力ながら応援させていただければと思います。

私は千葉敬愛経済大学(現在の敬愛大学)経済学部に入學し4年間野球部に在籍、昭和61年に卒業しました。当時を振り返りますと、現在の敷地に千葉敬愛経済大学、千葉敬愛短期大学、千葉工商高校(現在の敬愛学園高校)があり、大学生・短大生・高校生が入り交じり、何かとせわしなくも賑やかな学生生活を送っておりました。勿論現在の大学正門などもなく、現在の敬愛アリーナは運動部の部室だったと記憶しております。何かと手狭なスペースでしたが、その中で行われた学園祭や体育祭、ソフトボール大会など、教職員の皆様と学生がコミュニケーションをとり、親しみのある楽

しい行事であったことを懐かしく思います。この親しみやすく家庭的な雰囲気はなかなか味わえないものであり、魅力的なことだと思います。

一方現在の敬愛大学は、当時とは比べものにならないほど環境が整いました。この素晴らしい環境の中で、学生の皆さんは将来の社会人として活躍される準備をされていることでしょう。

しかしながら現在は、アメリカのサブプライム問題に端を発した金融危機が百年に一度といわれる世界的不況を引き起こし、日本でも相次ぐ企業倒産で失業者が増加、非常に厳しい経済環境になっており、就職状況の悪化もいうまでもありません。でも百年に一度の経済危機があるのなら、百年に一度のチャンスもあるのではないのでしょうか。周りの人と同じように「経済が悪い、景気が悪い」と言っていれば、周りの人と同じように悪い結果になっても仕方がないでしょう。しかし百年に一度のチャンスだと考えれば、周りの人と違う視点を持ち行動することによって、何らかの打開策が生まれてくるのではないのでしょうか。どうか学生の皆さんには、敬愛大学で学ぶ「敬愛愛人」の精神に基づき、逞しい学生になっていただきたいと思えます。

最後になりますが、理事長先生、学長先生をはじめ教職員の方々の日々の努力に感謝申し上げますと共に、会員の皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

